

# たかとき川

2005・Vol 34

特 集

雪深い湖北の冬が生み出した、独自の生活様式と豊かな心。



雪の里  
秋翠  
たかとき川の  
暮らし

丹生ダム広報誌

季刊

たかとき川

2005・Vol.34

発行：(財)水資源協会

監修

高時川治水対策促進協議会  
独立行政法人水資源機構 丹生ダム建設所

## 丹生ダムからのお知らせ

丹生ダムホームページ <http://www.water.go.jp/kansai/niu>

### 高時川や姉川で、孵化したビワマスの稚魚を確認しました。



▲ビワマス稚魚  
(平成17年1月下旬、姉川で撮影。孵化後、約50日程度と推定)

平成17年1月下旬、高時川の井明神橋下流(木之本町・高月町)～姉川合流点(びわ町)や姉川の中下流において、ビワマスの稚魚を多数確認しました。この稚魚のサイズは体長3cm弱、体重0.3g程度です。稚魚は、昨年の秋に琵琶湖から産卵のために遡上したビワマスの子ども達です。

12月～翌年1月頃に卵から孵化した仔魚達(赤ちゃん)は、河床の石ころ(こぶし大～米粒大)の隙間に埋まって、おなかの卵黄から栄養を取りながら育ちます。卵黄がなくなった稚魚達(子ども)はこの石ころの間から出てきて、川の中を泳ぎ出し、4～5月頃まで水生昆虫等を食べ、川で6cm程度の大きさになります。そして、5月～7月の雨による増水で川を下り、琵琶湖で成魚になり湖中で3～5年生活します。

1月の高時川の水温は日平均約5℃以下と冷たいものですが、冬から春の川の中は、ビワマス稚魚たちの生育の場としてのゆりかごになっています。無事に琵琶湖までたどり着き、再び成魚となって高時川・姉川に帰ってきてほしいものです。

## EVENT

### 余呉町 ～3月中旬頃まで 「余呉湖わかさぎ釣り」

- 内容/入漁料1,300円。手ぶらでもOK(竿・用具等の販売あり)
- 場所/ビジターセンター釣桟橋
- 問合せ先/余呉町漁業協同組合 ☎0749-86-3033



### 木之本町 3月20日(日) 「秋葉まつり」

- 内容/木之本の伝統行事のひとつで、火難消除などを願って行われます。法被を着込んだ男衆150人余りが、1.5トンの大みこしを担ぎ、町内を勇ましく練り歩きます。この祭りが終わると春が訪れると言われていました。
- 場所/木之本区一帯
- 問合せ先/木之本区 ☎0749-82-2616

### 高月町 4月2日(土) 「観音の里春まつり」

- 内容/新入学1年生による福もちまき、つきだての振舞餅、かき餅焼き体験。また、もちもち茶屋(特産品販売)など、餅づくしでおもてなしします。
- 場所/渡岸寺観音堂
- 問合せ先/高月町役場産業振興課 ☎0749-85-6405

## QUIZ

このコーナーでは、毎回、クイズに正解された皆さんの中から、抽選で10名様にプレゼントをお送りしています。

今回のクイズは… 昭和2年、伊吹山で記録された日本の最深積雪記録は〇〇m〇〇cmでした。さて〇〇とは？

皆さんからのたくさんのご応募をお待ちしています。

### 【クイズ解答のあて先】

クイズの解答は、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記の上、下記のあて先までハガキでお送りください。また「たかとき川」へのご意見、ご感想等がございましたら、あわせてご記入下さい。

〒529-0522 滋賀県伊香郡余呉町坂口819  
独立行政法人 水資源機構 丹生ダム建設所 広報誌クイズ係  
\*クイズの締切は平成17年3月15日(火)付消印まで有効です。

【たかとき川・33号】のクイズの答え

### 《ビワ》

前号のクイズに多数の御応募ありがとうございました。抽選の結果、下記の方々が当選されました。

### クイズ当選者(応募総数127枚)

- 秋野 剛嗣様 岸本 明子様 塚原 啓子様 吉川寿恵子様
- 江熊きよみ様 清水 厚子様 中川まさみ様
- 川瀬 昌子様 高畑 友美様 平川こなつ様

長浜市



### ～3月13日(日) 「長浜盆梅展」

- 内容/推定樹齢400年を越す古木や幹周り2m以上の巨木の盆梅を展示
- 場所/長浜市慶雲館・梅の館
- 問合せ先/長浜市観光振興課 ☎0749-62-4111(代)

### 4月14日(木)～16日(土) 「長浜曳山まつり」

- 内容/絢爛豪華な曳山はもちろん、そこで練り上げられる子ども歌舞伎に注目
- 場所/長浜八幡宮など市街地一帯
- 問合せ先/長浜市観光振興課 ☎0749-62-4111(代)



## 編集後記

雪の多い地域の人の前では、雪が降ると楽しいなどと、決して口にはいけなかつたと思っていました。苦勞を知らない人は困る、なんて怒られそうなのがして。

でも、それは少し考えすぎだったようです。今回の取材で、人は、苦勞の多い中でも楽しみを見いだす力があるのだと、改めて感じさせていただきました。

お話を伺った中で特に印象に残ったのは、雪が積もると普段歩けないところをスキーで近道できた、というものです。普段との違いに、さぞ気分が良かったのではないかと想像しています。

この冬も、これまでに何度かの積雪がありました。日々、いつも通りに通勤できるのも、深夜・早朝を問わず除雪作業に携わる方々のおかげです。寒い中での作業、本当にありがとうございます。

俳句/たまさかの 晴間は眩し 雪の里 谷口秋翠

表紙撮影/余呉町中河内 独立行政法人水資源機構